

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年6月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1571600475
法人名	特定非営利活動法人七福神
事業所名	グループホーム七福神
所在地	新潟県妙高市末広町1124番地 (電話) 0255 - 70 - 5307

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21 年 3 月 19 日

【情報提供票より】(20 年 12 月 18 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 13人、非常勤 8人、常勤換算 15.06人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階 建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 250 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 50 円	
	または1日あたり		円

(4) 利用者の概要 (20 年 12 月現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	9 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.3 歳	最低 53 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 けいなん病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム七福神」は、妙高山麓を見渡せるのどかな住宅地にある。広い敷地にどっしりとした平屋の和風建築はどこか懐かしい感じがし、この地域の風景に良く溶け込んでいる。ホームの裏手には水田がひろがり、近くには川も流れ、ちょっとした散歩、散策には最適な自然環境である。天気の良い日は、利用者は毎日のように散歩を楽しんでいる。ホームと町内会との関係も良好であり、散歩時に気軽に声を掛けていただいたり、野菜をいただいたり、ホームは暖かく地域の方に見守られ、支えられている。ホームには法人理事長が常駐しており、自ら地域との連携の重要性を大切に、積極的に町内会と関わっている。また、管理者、職員との信頼関係の中で利用者の方々とも温かく接している。「地域の方々といちにちをゆっくりに楽しく、じよんのびしながら」という事業所の理念がそのまま実践されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価結果を踏まえて具体的な改善を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。「重度化や終末期に向けた方針の共有」では看護師の配置を行うことで、主治医との連携がより密になり、利用者、ご家族の安心が得られるようになった。「事故防止のための取り組み」では、従来の事故報告書の書式をより使いやすいものに修正し、事故防止に効果的に活用できるようにした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員ともにサービス評価は自分たちのケアを見直す良い機会だと捉えている。自己評価、外部評価によって明確になった改善すべき項目をひとつひとつ見直して、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営者、管理者、家族代表、利用者代表、行政、地域の代表者などから参加していただき、2ヶ月に1度の頻度で開催している。サービスの報告、妙高市の介護予防事業受け入れの検討、評価についての改善取り組みの状況などについて報告、意見交換を行っている。運営推進会議が、地域住民と、行政との良好な連携の中で事業所のサービスの質の向上にとどまらず、地域の福祉サービスの向上にも役立っている姿が見える。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 管理者、職員は、家族からの意見や苦情を前向きに受け止め、サービスの質の向上に役立てている。家族の面会時には積極的に声をかけて、日頃から意見や要望を言いやすい雰囲気を作るよう努めている。運営推進会議でも家族から自由に発言してもらえるよう働きかけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームがこの地域にできたことは地域の人たちからも歓迎されており、良好な関係ができています。夏休みのラジオ体操の場としてホームの庭を開放しており、利用者も、地域の子供たち、親たちと一緒にラジオ体操を行った。地域の行事への招待も受けるなどしながら、地域の人たちとの交流を図っている。 可能な利用者には、本人だけで自由に散歩等できるように支援しており、地域住民からもさりげなく見守ってもらえる協力体制を構築している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方々と一緒に1日いちにちをゆったり楽しくじよんのびしながら、その人らしくおだやかな生活を送っていただく、」という、地域の人との連携を大切にしたい理念を職員と一緒に作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は朝のミーティングで理念を唱和するなどして日頃から理念を意識し、日々のケアの中での実践に取り組んでいる。		
	2-2	3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、契約時にホームの理念を伝えている。地域の方々には、運営推進会議の場などを通じて「地域の方々と一緒にその人らしく暮らす」というホームの理念を理解してもらうよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	3	5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームがこの地域にできたことは地域の人たちからも歓迎されており、良好な関係ができています。夏休みのラジオ体操の場としてホームの庭を開放しており、利用者も、地域の子供たち、親たちと一緒にラジオ体操を行った。地域の行事への招待も受けるなどしながら、地域の人たちとの交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともにサービス評価は自分たちのケアを見直す良い機会だと捉えている。自己評価、外部評価によって明確になった改善すべき項目をひとつひとつ見直して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
	5	8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営者、管理者、利用者代表、家族代表、行政、地域の代表者などが参加し、2ヶ月に1度の頻度で開催している。サービスの実施状況、評価に基づく改善への取り組み状況などについて報告、意見交換を行っている。運営推進会議の議事録も整理されている。		会議がホームのサービス向上にさらに活用されていくために、家族や地域の方など、来訪者がいつでも会議録を閲覧でき、ホームの取り組み状況を確認できるよう、広く開示することを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する「妙高市介護ネットワーク会議」に事業所として参加し、活発に意見交換が行われている。市担当者とは、日頃から連携を図り、妙高市全体の福祉についても意見交換しており、市の介護予防事業の受託に向けた話し合いが進められている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については、職員のストレスとの関係があることを管理者、職員が理解しており、お互いに声をかけ合い、自らのケアを振り返っている。利用者に対する声かけや態度なども、言葉の虐待になっていないか職員同士で注意を合っている。研修会などにも参加し、復命伝達することで、職員同士の気づきを喚起している。		虐待防止に向けた研修会、勉強会等の機会は、外部研修への参加と、その復命伝達を中心となっている。今後は、関係法令等への理解とその遵守に向けた職員の認識をよりいっそう深められるよう、ホームでも内部研修等を定期的で開催するなどしてはどうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族に対し、月1回文書にて利用者の近況報告を行っている。家族が来訪した際にはその都度口頭で、利用者本人の暮らしぶり、健康状態、金銭の管理などについて報告している。職員の異動があった場合も、口頭あるいは文書にて個々の家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は、家族からの意見や苦情を前向きに受け止め、サービスの質の向上に役立てている。家族の面会時には積極的に声をかけて、日頃から意見や要望を言いやすい雰囲気を作るよう努めている。運営推進会議でも家族から自由に発言してもらえよう働きかけしている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図ることを心がけ、職員が意見や提案を言いやすい環境作りに努めている。定期の会議やあるいは個別な場面において、現場の職員が意見や提案を言いやすいよう気配りがされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限の範囲で行うこととしている。異動等を行う場合は、利用者には不安やダメージを生じさせないように、利用者個々に応じた報告や声かけを行っている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルは整備されており、職員に周知されている。また、マニュアルについて検討する専門の委員会が設置されており、この委員会が中心になって適宜マニュアルの見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者を含めた職員が法人内外の研修に参加する機会を積極的に設けて育成に取り組んでいる。また、職員自らが学びたい研修にもできる限り参加できるよう配慮がされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業の事業所からの研修生の受け入れを積極的に行っている。職員の相互訪問や交流学习なども取り入れ、地域の事業所間とのネットワーク作りを進めており、このような活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者と管理者は、業務に対する職員のストレスを軽減するため、職員からの意見や要望の聞き取りを行っている。また、心身を休められるよう休憩室を確保するなど環境づくりにも取り組んでいる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームの見学などにお誘いし、本人や家族の希望を確認している。その後、お試し利用なども行って少しずつホームの雰囲気に慣れてもらい、本人が安心・納得した上で入居に結びつくよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対しては「介護される立場」ではなく、「人生の先輩」として接している。調理や、地域の慣習・文化・行事など、利用者から教えていただく場面を大切に、共に支えあうという関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族が触れあう時間が大切であると考え、ホームの行事にもできるだけ参加してもらうようお願いしている。また、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態を伝えて情報を共有し合い、家族と職員とが互いに協力してともに利用者を支える関係構築に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者と職員とが協力して、センター方式のアセスメントを活用し、日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族から情報を聞き取るよう努めている。		利用者によっては、本人の願い、支援して欲しいところ等の把握が十分でないケースもあるので、家族からの情報収集も含めて、今一度情報の整理をするなどし、さらなる把握と活用に期待したい。
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅に訪問して本人の暮らしぶりを見たり、折に触れて本人や家族からこれまでの生活や馴染みの暮らし方についての情報を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、計画作成担当者を中心に、家族、医師、看護師、担当職員など必要な関係者とよく話し合い、様々な意見を踏まえた上で本人の意向や希望を大切に作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しが行われている。体調の変化などにより計画を変更しなくてはならない場合は、随時介護計画の見直し・修正をしている。新たな計画は速やかに家族に説明し、了解を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに看護師を配置しており、主治医と連携をとって健康管理・医療的支援を行っている。主治医は往診にも対応してくれている。また、可能な方には利用者だけで散歩等できるように支援しており、地域との密な連携を図り、地域住民からもさりげなく見守ってもらえる協力体制を構築している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得したそれぞれのかかりつけ医が必要に応じて往診してくれるなど、ホームと医療機関は適切に連携をとり、利用者が安心して医療が受けられるよう支援している。必要な場合には、精神科等への受診支援も行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取りの時期の対応の仕方については、事業所と家族はよく話し合っている。家族に対しては、契約時に説明を行い、家族の要望をよく聞いて事業所としてできる範囲の対応をすることを説明し、家族から了解を得ている。実際に重度化した場合や看取り期に入った場合は、家族、医療機関とともにその都度対応を検討している。		管理者は、事業所として看取りを行う体制は十分でないと感じている。本人、家族からより安心してもらうためにも、今までの実績を見直し、事業所の方針、体制を再度整理して欲しい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や入浴の声かけ、対応などは、本人のプライドやプライバシーに十分配慮しており、対応が適切であったか職員同士で確認している。記録などの個人情報は、鍵のかかる保管庫で適切に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを大切にして、急がせずゆっくりとした対応をするよう努めている。天気の良い日は散歩に出かける等、利用者のその日その日の希望に沿えるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者とともに食材の買い物に出かけ、新鮮な旬のものを一緒に選んでいる。ご近所から頂いた野菜などもメニューに加えている。利用者から智恵や助けをもらいながら一緒に準備したり、楽しい会話をしながら食べ、楽しい食事の時間となるよう努めている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者のプライドに十分配慮してトイレ誘導を行い、排泄の失敗を予防するよう努めている。排泄チェック表なども活用し、一人ひとりの排泄のパターン、習慣を理解し、気持ちよくできるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者がとてもリラックスできる時間であり、利用者と職員の間でもよいコミュニケーションの時間であると捉え、一人ひとりがゆっくりと楽しく入浴できるよう、本人の希望や気分に応じて支援している。希望があれば毎日の入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の持っている力の引き出しに努め、炊事の好きな方、掃除などの習慣がある方など、一人ひとりが役割、楽しみごととして行えるよう支援している。また、毎日の散歩、車でのドライブなども楽しみごととして支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、屋外へ出かけることは大切なことであると考え、散歩や食材の買い物は、ほぼ毎日行っている。職員による見守りがなくても大丈夫と考えられる利用者には、地域住民による見守りなどの協力も得ながら、自由に外へ出かけられるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員は、身体拘束の具体的な行為について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても、職員がお互いに注意し合っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は施錠していない。地域住民による見守りなどの協力も得ながら、利用者が自由に外に出られるようにしており、鍵をかけないケアを実践している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリとした場面については報告書を作成し、原因、対応策等を検討し再発防止に活用している。報告書の様式には対応策に対する評価の項目を追加し、毎月の会議において、対応策が適切であったか、再発防止に効果があったかなど職員全員で評価を行い、さらなる事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	利用者の急変や事故発生に備え、年1回、職員全員が消防署員による救急法の研修を受け、応急手当や初期対応を学んでいる。また、ホームに看護師が配置され、看護師からの指導、助言も受けられるようになった。		夜勤時など職員が手薄な時の対応に不安を感じている職員もいるので、職員の不安を軽減し、いざという時にも確実に対応できるよう、緊急時の連絡方法や初期対応等について研修を重ねるなど、さらなる取り組みを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	災害時、利用者の避難に地域の防災組織から協力を得られる体制ができています。年1回の地域の防災訓練に定期的に参加している。また、事業所でも毎月、地域の公民館を避難所として実践的な避難訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態を確認して食事形態を検討している。体重管理も実施し、栄養やカロリーが必要量摂取できるよう支援している。午前、午後のお茶の時間を設け、水分も十分に摂取できるようにしている。また、カロリーについての勉強会も行い、利用者の栄養管理について積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、木の質感を多用した温かみのある造りである。習字やちぎり絵など利用者の作品がさりげなく飾られ、季節感や落ち着いた雰囲気を感じることができる。住空間づくりは、利用者からの意見や希望を踏まえて取り組んでいる。</p>		<p>展示物や掲示物は生活感、季節感が感じられるものであるが、利用者の視点からするとやや高い位置にある。利用者にとっての見えやすさなど、利用者や来訪者の意見も聞きながら検討し、さらに居心地のよい環境となるよう今後も取り組みを期待したい。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が長年使っていた家具を置いたり、好みの写真を飾るなど、その人が落ち着いて過ごせる居室となるよう支援している。</p>		